

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 1月 5日

事業所名 すだち道伯

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		活動内容によって、スペース分けをしている。	見守りの必要性を痛感している。
	2	職員の配置数は適切である	8		基準で定められている人員配置以上の職員を配置している。	常に利用者に対して見守りができているか、無理のない配車の検討。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8		段差がなく、車椅子もは入れるようになっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		職員全員が取り組んでいる。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		アンケートをもとに職員間で話し合っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		ホームページにのせている。	SNSの活用。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		なるべく多く研修の機会を設けている。	情報の共有をする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		職員で話し合い、児童発達支援管理責任者が作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		プログラム作成担当者を中心に立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		季節に合わせたプログラム・療育の作成。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		利用時間の長さによって内容を変えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		気になることは、その日に話し合うようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		気になることは、その日に話し合うようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		毎日記録し、気になることは話し合っている。	日々の記録の再認識。振り返りの必要性を感じている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		定期的に行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8		日々の療育活動を通して行っている。		

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		各学校に利用予定表を渡している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5		未回答1
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8		児童発達支援事業所との情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		積極的に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8		児童館や公共施設を定期的に利用している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		必ず参加している。	未回答1
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時や電話等で行っている。	連絡帳の活用。 必要に応じては口頭でもしっかり伝える。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8		その都度助言している。	その時その時の状況をしっかり保護者に伝えていくことで、対応力の向上を図る。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		見学时、契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		相談があればその都度行う。	連絡帳の活用。 気軽に相談できる信頼関係の構築。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1		未回答1 一年に一回程度、保護者会の開催は必要。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		職員で話し合い、改善に努めている。	早急な対応が保護者の信頼につながる。 職員全員に情報の共有が必要。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		ブログやスケジュール表で知らせている。	
	35	個人情報に十分注意している	8		鍵付きの部屋で保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			家庭状況を把握し、用紙を使っての情報の伝達の必要性。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		クリスマス会を開催した。	未回答1

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		保護者にも配布している。	年に一回は各マニュアルの再確認が必要。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		年に二回、避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		毎年参加している。	虐待に対する事故の啓蒙。 虐待行為の再認識の必要性。 ケース検討の必要性。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		その都度共有している。	ヒヤリハット・事故報告の共有。必要性の再認識。